

会 議 記 録

会議名 予算特別委員会総務分科会

開催日 平成31年3月11日(月) 開会 午前10時40分

閉会 午前11時41分

出席者 委 員 分科会長 福 田 裕 司

福 富 善 明 入 野 登志子 永 田 武 志

関 口 孫一郎 針 谷 正 夫 大阿久 岩 人

天 谷 浩 明

傍 聴 者 森 戸 雅 孝 小 平 啓 佑 浅 野 貴 之

川 上 均 大 浦 兼 政 古 沢 ちい子

大 谷 好 一 坂 東 一 敏 青 木 一 男

茂 呂 健 市 内 海 成 和 小久保 かおる

針 谷 育 造 氏 家 晃 千 葉 正 弘

白 石 幹 男 小 堀 良 江 梅 澤 米 満

中 島 克 訓

事務局職員 事務局長 稲 葉 隆 造 議事課長 金 井 武 彦

副 主 幹 岩 崎 和 隆 主 査 岩 川 成 生

委員会条例第21条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

総合政策部長	茅原	剛
総合政策部副部長	小保方	昭洋
総務部長	川津	浩章
危機管理監	榎本	佳和
財務部長	杉山	知也
会計管理者	岸	千賀子
消防長	石田	栄
監査委員事務局長	橘	唯弘
総合政策課長	増山	昌章
秘書課長	永島	勝
シティプロモーション課長	福田	栄治
蔵の街課長	中田	芳明
遊水地課長	荒川	明
地域づくり推進課長	横倉	延男
大平地域づくり推進課長	茂呂	浩司
藤岡地域づくり推進課長	佐山	厚子
都賀地域づくり推進課長	佐藤	真治
西方地域づくり推進課長	落合	博昭
岩舟地域づくり推進課長	岩崎	充
総務課長	名淵	正己
職員課長	瀬下	昌宏
情報システム課長	塚田	薫
契約検査課長	木村	浩二
危機管理課長	糸井	孝王
管財課長	萩原	雄一
財政課長	寺内	秀行
公共施設再編課長	神永	和俊
市民税課長	海老沼	文明
資産税課長	山野井	広実
収税課長	野中	守
会計課長	出井	英男
消防次長	小島	徹

消 防 総 務 課 長	上	岡	健	司
消 防 総 務 課 主 幹	小	川	信	幸
予 防 課 長	赤	城	一	仁
警 防 課 長	鈴	木	宏	之
通 信 指 令 課 長	小	高	照	明
副 署 長 兼 消 防 第 1 課 長	栗	田		誠
副 署 長 兼 消 防 第 2 課 長	本	名	義	人
選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局 次 長	田	嶋		亘
監 査 委 員 事 務 局 次 長	佐	山	美	枝
議 事 課 長	金	井	武	彦

平成31年第1回栃木市議会定例会
予算特別委員会総務分科会議事日程

平成31年3月11日 総務常任委員会終了後 全員協議会室
日程第1 議案第1号 平成31年度栃木市一般会計予算（所管関係部分）

◎開会及び開議の宣告

○分科会長（福田裕司君） ただいまの出席委員は8名で、定足数に達しております。

ただいまから予算特別委員会総務分科会を開会いたします。

（午前10時40分）

◎諸報告

○分科会長（福田裕司君） 当分科会に送付された案件は、各分科会議案送付区分表のとおりであります。

◎議事日程の報告

○分科会長（福田裕司君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎議案第1号の上程、質疑

○分科会長（福田裕司君） ただいまから議事に入ります。

日程第1、議案第1号 平成31年度栃木市一般会計予算の所管関係部分を議題といたします。

なお、本予算に対する説明は2月22日に開催された予算特別委員会全体会及び各分科会説明表の送付をもって済んでおりますので、分科会での説明は省略いたします。

また、分科会では質疑のみを行い、討論、表決については3月22日金曜日に開催される全体会において実施しますので、よろしく願いいたします。

これより審議に入ります。

お諮りいたします。審査の順序につきましては、まず歳出各款ごとの質疑、次に歳入を一括した質疑、次に債務負担行為、地方債、一時借入金及び歳出予算の流用を一括した質疑の順序により進めてまいりたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

なお、執行部の答弁に際しましては、担当課長のみならず質問の内容によりましては担当部長等にご答弁いただくこともありますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

まず、歳出各款ごとの質疑に入ります。

1款議会費の質疑に入ります。予算書につきましては124ページから127ページであります。

なお、質疑に際しましては、予算書のページ数もお知らせ願います。

針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 125ページの市議会議員共済会負担金というのが一番下の段に5,400万円が計

上されております。これは平成29年度の決算では6,647万円、平成30年度の予算では6,300万円と遞減を見せております。今年はまだ少なくなっておりますが、その辺の経緯と、内容はいいな、その辺についてお伺いします。

○分科会長（福田裕司君） 金井議事課長。

○議事課長（金井武彦君） お答えを申し上げます。

市議会議員共済会給付費負担金につきましては、平成23年の法律改正によりまして市町村が負担するというようなことで負担をさせていただいているものでございます。これまで負担率が年々下がってきているというふうな状況がありまして、それは当然給付されている、給付を受けている方々が年々減少しているということが影響して負担率が下がってきているということでございます。参考に申し上げますと、平成30年度は38.2%でございましたが、新年度、今回予算に計上いたしました負担率は36.9%ということで若干減少しているというふうな状況でございます。

以上でございます。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） ありがとうございます。

現在何名ぐらいの方が対象者になっているのでしょうか、本市では。

○分科会長（福田裕司君） 金井議事課長。

○議事課長（金井武彦君） お答え申し上げます。

本年3月期におきましては、退職年金が72人、遺族年金が62人の合計134人でございます。参考に申し上げますと、昨年同時期が140人でしたので、6人程度減っているというふうな状況でございます。

〔「了解です」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） ないようですので、次に移ります。

2款総務費及び8款土木費を一括した質疑に入ります。2款は128ページから173ページ、8款は279ページの歴史まちづくり事業費が所管となります。

天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 129ページ上から3段目なのですが、国際交流協会の費用補助金なのですが、1,295万円です。これに対して、たまたまですけれども、きのう国際交流協会のほうでもこけら落としというわけではないのですが、今までずっと栃木市内から離れていてやっていました。きのう市内でやってかなり大勢の方々が出た。非常に成功しているというふうに思います。一時期監査関係でも減額措置をされた年度もありましたが、この件につきましてちょっとご意見をお伺いしたいと思います。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） お答えを申し上げます。

まず、今年度予算におきましては、昨年度と同額の1,295万円の補助金を予算に計上させていただいているわけですが、今委員ご指摘の件につきましては、かつて繰越金が若干多いときがございまして、その際に平成27、28年につきましては補助金を減額させていただいたような経緯があるというふうに承知しております。

以上であります。

○分科会長（福田裕司君） 天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 減額というよりも、きのう自分のほうの所見ですけれども、やっぱり国際交流これからずっと地域とも一緒になってやっていくというわけでありますから、繰越金が極端に増えれば別ですけれども、かなり運営も厳しいと思っております。こちら辺の予算の減額をなるべくしないように栃木市の、あと外国人のための施策を考えてもらって安定した運営をしてもらいたいというふうに思います。要望です。

○分科会長（福田裕司君） 要望でよろしいですね。

○委員（天谷浩明君） はい。

○分科会長（福田裕司君） 入野委員。

○委員（入野登志子君） 今の129ページなのですけれども、今年は予算の計上にないのですけれども、平成30年度に中学生の海外派遣事業というのがあったのですけれども、今年度、平成31年度の計画はあるのかないのかお伺いいたします。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） 今年度まで実施してまいりました中学生の海外派遣事業につきましては、新年度におきましては実施しないという方針であります。

以上でございます。

○分科会長（福田裕司君） 入野委員。

○委員（入野登志子君） これからグローバルで国際的なものをメンバーをつくっていきたいということで、これからも派遣をしないということですか。今年度はないけれどもということでしょうか。今年度というか、平成31年度。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） お答えを申し上げます。

今年度まで実施してきた、今年度、平成30年度も実施いたしまして、30名の中学生を海外にオーストラリアに派遣させていただいた事業でありますけれども、今後栃木市全体の話になりますけれども、30名という特定の中学生の方を海外に派遣して国際感覚や英語の能力を伸ばしていただくというような取り組みよりも、全体の小中学生の英語力ですとか、国際化についての理解を進めると

いうふうに市としてはそういう方針でいきたいということから、今後につきましては、中学生の海外派遣につきましては一応平成30年度で中止と、見合わせるということにいたしまして、一時見直しということではなくて、この事業については今年度をもって中止したいということでございます。

○分科会長（福田裕司君） 永田委員。

○委員（永田武志君） 131ページ、職員作業服貸与事業費32万8,000円なのですが、これ支給ではなくて貸与ということですので、古くなったら申し出て交換していただくシステムになっているのか、そこら辺のところお尋ねいたします。

○分科会長（福田裕司君） 瀬下職員課長。

○職員課長（瀬下昌宏君） 基本的に貸与しておりまして、古くなった場合にも使い続けていただいているのですが、その状況に応じてどうしても取りかえが必要なケースのような場合には貸与してまいりたいと考えております。

以上です。

○分科会長（福田裕司君） 永田委員。

○委員（永田武志君） この貸与対象ですけれども、現場のある所管全てに貸与するのか、それとも我々議員は防災服などは初当選時代にいただいておりますというか、使っておりますが、全職員対象なのか、作業服に関しましてお伺いいたします。

○分科会長（福田裕司君） 瀬下職員課長。

○職員課長（瀬下昌宏君） 貸与している先は、各種現場がある職場と災害等において出動が予定されている部署ということで、全職員ということではございません。

以上です。

○分科会長（福田裕司君） 永田委員。

○委員（永田武志君） ただいまちょっと触れたのですが、我々議員が今お預かりしている作業服でございます。これはあくまでも職員と同じで貸与という感覚で受けとめてよろしいのでしょうか、お伺いします。

○分科会長（福田裕司君） 糸井危機管理課長。

○危機管理課長（糸井孝王君） 今のお話は防災服かと思っておりますけれども、あくまでも貸与ということでご理解いただければというふうに思っております。

以上です。

○分科会長（福田裕司君） 永田委員。

○委員（永田武志君） この32万8,000円、これは着数も後でお聞きしたいと思うのですが、新たに新採用で職員入りますね。その皆さんにもとりあえず職場が決まって現場のある所管にはこの中から貸与するというようによろしいのでしょうか。

○分科会長（福田裕司君） 瀬下職員課長。

○職員課長（瀬下昌宏君） 新採用職員につきましても現場を抱えている職場に配属された場合に貸与することといたします。

○分科会長（福田裕司君） 永田委員。

○委員（永田武志君） この32万8,000円、これ何着ぐらいのストックとして考えているのかお伺いします。

○分科会長（福田裕司君） 瀬下職員課長。

○職員課長（瀬下昌宏君） 今年度分につきましては、平成31年度分につきましては約30着分を想定しております。

○分科会長（福田裕司君） 永田委員。

○委員（永田武志君） ありがとうございます。

先ほどなるべく長く着用してもらおうということ、もっともだと思うのですが、現場によって、また時と場合によってペンキなりオイルなり付着してしまったと、また切れてしまったと、そういった場合は極力、作業服もやはり栃木市職員の顔ですから、その辺の対応はよろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございます。要望です。

○分科会長（福田裕司君） 入野委員。

○委員（入野登志子君） 129ページのところなのですけれども、上のほうから5番目ですか、友好姉妹都市交流継続確認事業費ってあるのですけれども、こちらの説明の中では金華市への訪問事業の委託料ということで書いてあるのですが、今年、平成31年度はこの事業で予算が計上されています。平成30年度はなかったのですけれども、継続確認という言葉が入っているのですが、これはどのように捉えていったらいいのでしょうか、お伺いいたします。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） ご質問の事業につきましては、平成31年度に市長、それから議長に金華市に行っていただきまして、友好姉妹都市の交流継続を確認していただくと、確認書を取り交わすというようなことを予定しております。

○分科会長（福田裕司君） 入野委員。

○委員（入野登志子君） いつごろの予定になっているのでしょうか。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） 先方の都合もありますので、これから調整ということですが、来年度秋口に先方の都合、それから議長、市長の都合を調整したいというふうに考えております。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 1つの地方自治体における外交という問題になろうかと思いますが、普通職員の下話、下相談があってある程度見通しがついているというところで行って、調印と言っては大きですが、そういうのが普通の段取りかと思いますが、どのような状況になって……

○分科会長（福田裕司君） ページ数と内容をお知らせ願います。

○委員（針谷正夫君） ただいまの関連質問です。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） お答えを申し上げます。

委員ご指摘のとおりでございまして、本年、ご承知かと思いますが、金華市からは3度栃木市に訪問団がいらっしゃっておりまして、その際皆さん口々に、11年ぶりということになりますので、栃木市から伺うのが、ぜひ金華市のほうにお越しいただきたいという話をまずいただきまして、国際交流協会等と通じて、まだまだ日程等々これからでございすけれども、その辺の機運といえますか、先方も受け入れていただくというお気持ちはもう十分にあるというふうに考えておりますので、これから事務的などところを詰めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） ちょっと事務局としましては、文書あるいはメール等での条件交渉みたいな、条件というのかしいですけども、その機運を高めるみたいなこと、あるいは派遣をするつもりで、今ここには上がっていないですが、どのようにお考えですか。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） 既に先方とは調整始まっておりまして、国際交流協会を通じてもう具体的にいつごろになるかという段階でございまして、その辺の機運というのは滞りなく進めてまいりたいというふうに考えています。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） そうしますと、ある程度これ表に出てきた話ですので、例えば何年とか、そういうことではなくて、調印を結んで、後はずっとそのまま流れ、何年間のとか、そういうことは別に期限は設けない、そういう考え方でよろしいでしょうか。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） お答えを申し上げます。

委員ご指摘のとおりでございまして、改めてこの機会に確認するというでございまして。いつまでの期間ということではなく、今後も継続してということを確認させていただきたいということでございます。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） もう一点、例えば単なる友好という段階にとどまるのか、あるいは何か経済的なつながりを強くしようとか、そういうふうなことも取り決めるみたいな感じでいらっしゃるのでしょうか。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） まず、現時点におきましては現状の友好姉妹都市を確認するという
ことで考えてございますが、先方からは経済的な交流ですとか、民間の交流ということもかなり積
極的に、口頭ではありますけれども、お話はいただいておりますが、今後十分にその辺も詰めてま
いりたいと思います。現時点では確認すると、現状を確認して改めて引き続き友好的な関係を結ん
でいきたいということでございます。

以上であります。

○分科会長（福田裕司君） 永田委員。

○委員（永田武志君） 151ページ中段、高齢者リフレッシュ事業費（都賀）、これ地域会議のほうか
らの要望事業だと思っておりますが、従来のはつつセンターと比較しまして……

○分科会長（福田裕司君） 所管外ではないかな。

○委員（永田武志君） 所管外、いいです、失礼しました。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） シティプロモーション事業費、133ページの上から3つ、4つ目の事業につ
いてお伺いをいたします。

この事業については、平成28年度に組織が、シティプロモーション課ができて、それから…
…

〔何事か呼ぶ者あり〕

○委員（針谷正夫君） 133ページです。

○分科会長（福田裕司君） 言っている、言っている。

○委員（針谷正夫君） 133ページ。平成28年度から始まっているかと思うのですが、それで主要事
務事業見ますと、その内容というか、例えば平成30年度と平成31年度の目的の事業内容のところ
については同じ項目が上げてありまして、知ってもらおうとか、あるいは移住云々促進を図るみたい
なことが書いてありますが、やはり大きな流れのスパンの中でこの事業が進む。今度次はステー
ジャップするみたいな感覚もとれるのですが、今までの流れのことについてちょっとお伺いを
します。そして、今年度の位置づけといたしますか、お願いをいたします。

○分科会長（福田裕司君） 福田シティプロモーション課長。

○シティプロモーション課長（福田栄治） お答え申し上げます。

シティプロモーション事業につきましては、2017年から2019年にシティプロモーションの第1段
階の浸透という形で進めておりまして、市内のいろいろな資源を再発見して、それをまず気づ
いてもらうという形で、「a r u」というプロモーション雑誌とか、またプロモーションビデオ、
またポスター等を掲示して栃木市の魅力というものを発信するというので、まずファースト、
最初の段階でございます。

今年、これからのことでございますが、第2段階としましては、2020年から2023年でシティプロ

モーション、クリエイションセカンドということで、重点項目を行動という形に移していきたいというふうに思っています、予算にもシティプロモーションの行動計画策定事業で上げておりますように、次のステップのほうに入っていると。平成30年度でその序章といいますか、少し手がけたものが市民レベルで情報を発信しようといったことで、ゆる栃くらすたという事業を次のステップに向けての第1段階目の事業を進めているといったことでございます。

以上です。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） この主要事務事業のところを見ても、地元企業と連携したシティプロモーションの推進ということで、平成28年度に一般質問もさせてもらいましたけれども、民間との提携が必要だということが今回これあらわれてきているので、いいことだなとは思っています。それで、やっぱりシティプロモーションというのはそのこと自体が目的ではなくて、あくまでも手段であって、その結果として例えば交流人口が増えるとか、関係人口が増えるとかという、あるいは産業団地の誘致に有利に働くとかということになってくると思うのですけれども、事業を追求する余り、今それがそこだけになってはまずいということで、例えばその結果の交流人口とか移住人口とかとの因果関係についてはなかなか政策のほうもありますけれども、その辺はどのように検証しているというか、もうこれ2年、3年目、3年たっているわけですけれども、その辺はどんなふうに検証しているのでしょうか。

○分科会長（福田裕司君） 福田シティプロモーション課長。

○シティプロモーション課長（福田栄治君） 実はシティプロモーションの推進につきましては、総合計画に基づきまして、共に考え共に築き上げるまちづくりの中で位置づけをしております、その基本施策に関する指標を一応ありまして、目標値を定めております。それは、こういったことが目安になるかということで、指標とすると市民の方々が「栃木市が好き」という割合、これが計画策定時は63.6%でありました。それと、「関東の人が栃木市を知っている」割合、これが44.6%、それと「関東以外の方が栃木市を知っている」割合、28.5%、こういった現状値に基づいて目標値を定めまして、先ほど申し上げたようなさまざまな活動をしてまいりまして、その検証ということで、今ちょうど検証中でございますが、ちなみに平成30年の3月時点での先ほどの割合でございますが、「栃木市が好き」という市民の割合が63.6%の現状値から69.17%という形で若干上向いているのかなというふうに思います。また、「関東の人が栃木市を知っている」割合、これが48.28%という形でこれも3.6%。「関東以外の方」、この辺につきましては28%という形で横ばいであるかなというふうに思っています、このほかにも調査をかけているわけですが、そういったことを指標として検証を行ってPDCAサイクルですか、回しながら行っております。

以上でございます。

○分科会長（福田裕司君） ここでちょっと申し上げたいのですが、質問と答弁、もっと簡潔明瞭で

お願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

針谷委員。

○委員（針谷正夫君） それでは、先ほど民間の提携という話がありましたけれども、もうちょっと具体的にお話ししていただけますか。

○分科会長（福田裕司君） 福田シティプロモーション課長。

○シティプロモーション課長（福田栄治君） お答え申し上げます。

企業との協定はありませんで、企業の募集ですか、まずシティプロモーション冊子とか、いろいろポスターを協力してくれる応援企業ということを募集をしていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「了解です」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） ほかに質疑はありませんか。

入野委員。

○委員（入野登志子君） ページが139ページですか、下から主要事業にもありましたけれども、あわせて100歳ヒアリングの事業費ということで、予算計上されているのですけれども、これをヒアリングをして記念撮影委託料とかあるのですけれども、少しちょっとイメージが湧かないのですけれども、100歳というと90歳ぐらいの方と小学生合わせて100歳ということなのかなと思うのですけれども、少しちょっとイメージを教えてくださいませんか。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） では、この事業についてご説明をさせていただきます。

ご指摘のとおり90歳前後の方と小学生ということで、合わせて100歳というふうにさせていただいておりますが、具体的には戦前において戦前の段階である程度20歳前後になっていらっしゃる方というふうな形で、戦前の環境に優しい暮らしといいますか、環境負荷の少ない暮らしを経験している方を対象としてヒアリングを行いまして、当時の暮らしの知恵、具体的には自然との共生ですか、地元での地域での協働ですとかという暮らしの知恵やその心豊かな暮らしの部分、それから地域に伝承されている当時の地域らしさということを改めてお聞きしまして、そのことをライブラリー化するといいますか、資料化するわけですけれども、それを今後の栃木市の施策に反映していく、それから各地域のまちづくりにおいてもそういった提案をヒントに取り組んでいきたいと、そういう事業でございます。

○分科会長（福田裕司君） 入野委員。

○委員（入野登志子君） そうしますと、各小学校の子供たちが90歳前後の方のところに訪問をしてという、全ての学校の子供たちもメンバー的には仕上がっているのでしょうか。この90歳の方々のところなのですか。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） 予算に計上させていただいているこの事業につきましては、実際に90歳ヒアリングという手法をもう既に実施している自治体、それから研究していらっしゃる大学の先生がいらっしゃいまして、実はその方の指導を来年度実施に向けて今仰いでいるところでございまして、具体的に90歳の方を今選定させていただいているとか、小学生を選ばせていただいているという段階ではございません。これからの取り組みになりますが、90歳の対象者の方、それから市の担当者、もちろんカメラは別に委託することになりますけれども、そこに先行している自治体の取り組みによりますと、小学生が参加していただくことで、小学生が具体的に余り1対1でやるというよりも、実際には職員と90歳の方ということが基本になると思いますけれども、小学生がいるということで、がぜん90歳の方が話しやすくなると思いますか、いろんな話が聞けるということが先行事例としてありまして、やはりそこは世代間の交流ということも考えまして、小学生にももちろん質問はしていただきたいと思っておりますが、そのような考えで同席をしていただく、一緒にヒアリングに参加していただくということを考えております。

以上であります。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 関連質疑で、私もこれちょっとわかりづらかったのですが、そのライブラリーをつくることも一つの目的だが、そうではなくてそれを生かしてまちづくりや行政施策に反映というところがよく見えないのですが、具体的に案がありましたら。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） 済みません、少し長くなるかもしれませんが、実はこの事業につきましては、小平浪平翁の生家を受け入れたことに伴いまして、小平翁の理念というのは物づくりの理念ということになるかと思っておりますけれども、それをやはり今後継承していく、それから今の暮らしに反映していくということがまず重要だと思っております、その取り組みを今後進めていくという中で、日立製作所さんの関係者の方から、具体的には名誉顧問の方からなのですけれども、広く先人の知恵を今後のまちづくりに生かせないかというようなことで、では別の事業ではありますけれども、環境負荷の少ない暮らしを今後の今の現代にもそのヒントを生かせるものがたくさんあるのではないかとこのところを今後の施策に生かしていきたいということでございまして、具体的には例えば今市で取り組んでおりますウオームシェアですとか、クールシェアみたいな取り組み、それからほかの自治体でやっておりますもったいない運動ですとか、いわゆる横文字で恐縮ですけれども、シェアリング・エコノミーというのですか、使われていない資源を有効活用するとか、生かされていない個人個人の地域に埋もれている個人のスキルを生かすとか、そういったところの施策の基本的な理念として、昔の自然とともに生きていた暮らし方ですとか、地元の方が一緒に手を取り合って共同作業していたとか、そういう理念がそういった施策、それからそれぞれの地域のま

ちづくりにも十分にヒントになるのではないかとということで、改めて戦前の暮らしを知っている方のお知恵をお聞きしたいということでございます。

○分科会長（福田裕司君） 天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 171ページなのですけれども、全体の話なのですが、統計調査ということなのですけれども、これについて先般厚労省のほうでいろいろデータが間違っていたというのがあります。まずは、これについて今回この予算に対しての影響というものはあるのかどうか伺います。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） ご質問は、厚労省で行っております毎月勤労統計調査かと思いますが、この統計調査につきましては市で特に委託を受けているものではございませんので、この統計調査そのもので市の今回の統計、幾つも平成31年度は事業費として統計調査が予定されておりますので、これに直接的な計上に影響があったということはありません。ただ、その毎月勤労統計調査の影響につきましては、各種雇用保険等に影響があるということは報道等で聞いておりますので、その辺は注視していかなければならないと思います。それと、影響ということですが、今後統計調査員をお願いする際、それから統計調査を市民の方をお願いする際にやはり影響はあるのではないかとというようなことを懸念はしております。統計そのものの信頼と、統計調査そのものの信頼という点では少し市としてもきちんとやっていきますということを説明していかないと、統計調査員の方、それから対象者の方のご不満といいますか、不信感といいますか、そういったものはきちっと対応していく必要があると、その辺は懸念はしているところであります。

以上であります。

○分科会長（福田裕司君） 天谷委員。

○委員（天谷浩明君） もうちょっと詳しく聞きたい。要は栃木市で行っているデータについては信用性はあるのではないかと。ただ、厚労省でやったのが全体的にまとめたその依存の仕方というか、適当ではなかったのかなというような解釈を私は今したのですけれども、その点についてもう一回お願いいたします。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） 私どもで承知しておりますのは、今回の毎月勤労統計調査につきましては、全体の調査の中で東京都の調査対象について、本来500人以上の企業を悉皆に全部調査しなければならなかったところを抽出して行ったというふうに承知しておりますが、本年度この予算書に計上させていただいております調査につきましては、毎月勤労統計調査というのは先ほど申しましたように栃木市では特に関与している部分ではないのですけれども、それぞれ工業統計調査、経済センサス等手法がもう明らかになっておりまして、それに従って市としても適切に対応してまいりたいというふうに考えております。特段今回の件でこの調査についての手法について何か左右されるということはありませんが、改めて気を引き締めて対応していきたいということでござい

ます。

○分科会長（福田裕司君） 福富副分科会長。

○副分科会長（福富善明君） 139ページ、自転車を活用した広域連携事業費ということになりますけれども、最近渡良瀬遊水地とともに自転車を活用して健康を目的とした地域をするということで、いいことだと思うのですけれども、この内容についてお知らせください。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） ご質問の自転車を活用した広域連携事業費につきましては、2つございまして、県内、市、町、6市2町で構成しております協議会に自転車を活用した観光誘客を図るという目的の協議会に加盟しておりまして、その負担金が1つございます。これにつきましては、サイクルイベントを開催するというのでございます。もう一つは、全国的な組織で自転車を活用したまちづくりを推進する全国市町村長の会というのがございまして、こちらにも加盟いたしましたので、こちらの負担金もございます。この2本でございます。

○分科会長（福田裕司君） 福富副分科会長。

○副分科会長（福富善明君） 市としてはこのことについてはどんなお考えしていますか。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） これまでサイクルマップですとか、あと幾つかの取り組みをしてまいりましたが、渡良瀬遊水地を初め市内全域、自転車で回って非常に楽しめる本市だというふうに思っておりますので、さらにこういった今お話しした連絡協議会等々で情報を収集して、具体的な取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております。

以上であります。

○分科会長（福田裕司君） 福富副分科会長。

○副分科会長（福富善明君） 自転車専用道路というのがまだまだ不足しているかと思えます。やっぱり自転車走行の場合には安全というのが優先されているもので、その整備もあわせて進めていただければと思えます。要望でございます。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 139ページの下の方ですが、文星芸大と国道293号線沿線との連携事業ということで、9月補正のときに同額の予算が上がってきまして、そのことについて質疑もいたして説明をお聞きしました。それで、平成31年度の事業に上がってきているということで、9月補正は平成30年度中の事業ということになるかと思いますが、どんなことを具体的になされたかということとをまずお聞きします。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） この協議会につきましては、本年度栃木市が加盟したものでございまして、栃木市、鹿沼市、さくら市、那珂川町、そして文星芸大で構成しておりまして、R293、

国道293号線を活用した文化的、芸術的な地域資源の魅力を発信するためという事業でございまして、今年度は去る3月3日に栃木市と鹿沼市をめぐるバスツアーを実施いたしました。栃木市内におきましては山車会館、それから蔵の街美術館、そしてまちなかの蔵の街大通り周辺を散策していただいたものでございます。

以上です。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） ちょっと聞き逃したというか、書き逃したのですけれども、文化的とか、あと一つは何でしたか。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章） 芸術的でございます。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 鹿沼市と連携をしてバスツアーが行われたということですが、成果といえますか、事業の内容についてはわかりましたが、人気があったのかなかったのか、その辺をお聞きしたいと思います。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） 私も当日立ち合わせていただきましたけれども、バス1台、東京都、それから埼玉県のお客さんが見えまして、雨の中ではございましたけれども、山車会館、それから美術館等見ていただきまして、市長も直接バスへ乗り込みまして、ご挨拶市長からもさせていただきまして、ぜひ情報発信につなげていきたいということをお願いしたところでございます。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 栃木市が後から加盟したということはきょう私もわかったのですが、この言い出しっぺはどちらになっていますか。県とかが主導してということではなくて、何か民間でというか、市、町でできたのか、その辺を。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） お答えを申し上げます。

これの発端は文星芸大からの申し入れでございます。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） となれば、文星芸大で文化的、芸術的なそのものでありまして、文星芸大の学長が今度漫画家のちばてつやさんがなると承知をしておりますが、そういったことを例えば協議会みたいなところで文星芸大にちばさんいますよというような話は出ているのでしょうか。

○分科会長（福田裕司君） 委員の皆さんにちょっとお伝えしたいのですが、予算審議なのです、基本的に。それで、質問がいけないというのではなくて、できればこの予算計上したことについて事務事業の内容を聞くのではなくて、そこにひっかけていただければありがたいかなと思います。よ

ろしく願います。

〔「わかりました。再質問します」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 25万8,000円ということで、この額は決まらずにというか、変わらずにずっといくみたいな形でしょうか。

○分科会長（福田裕司君） 増山総合政策課長。

○総合政策課長（増山昌章君） これ協議会の全額負担金でございまして、これは変わりません。

○分科会長（福田裕司君） ほかに質疑ありませんか。

天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 139ページの一番上です。本庁の高圧受電設備改修工事です。これについて、6,352万5,000円ということが計上されております。これについて基本的な考えなのですが、多分これに、前私も質問したPCBの問題もちょっとあったかなと思うのですが、これについてのちょっと予算的にも入っているのか、処分とかについて、それお伺いしたいと思います。

○分科会長（福田裕司君） 萩原管財課長。

○管財課長（萩原雄一君） こちらにつきましては28年経過いたしまして、平成2年から使っている施設のリニューアルということで、5階の機械室に設置してあります高圧受電設備の関係のコンデンサーとか、おっしゃいましたとおりそういったものも入っているかと思うのですが、それについての全てを含んだ形での交換ということで、予算させていただいております。

○分科会長（福田裕司君） 天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 関連になるのですが、多分使われなくなったコンデンサーですか、変圧器の中にPCBが入っているという認識していて、そのうち処分しなくてはならないと。多分それが平成34年だか、平成35年でその期限が来ると思うのですが、その辺も一応加味した考えでやっているのかと思いますが、ちょっと予算とは変わりますが、お考えをお願いしたいと思います。

○分科会長（福田裕司君） 萩原管財課長。

○管財課長（萩原雄一君） こちらにつきましても取りかえの時期、寿命が15年から20年が過ぎているものですから、全て交換とういことで考えております。

○分科会長（福田裕司君） ほか、質疑。

針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 159ページあたりに、コンビニ納付あるいは収納について、コンビニ納付の点から聞きますが、コンビニの数が幾つぐらいあって、例えば使用者の方がどれぐらいいるのか、お聞きをします。

○分科会長（福田裕司君） 野中収税課長。

○収税課長（野中 守君） コンビニにつきましては、非常に利便性が高いということで、毎年

重ねるごとに利用者は増えております。ちなみに平成26年から平成30年で約24%、利用が増えているということで、今後もそちらについては増えていくというふうに予想しているということで有効な手段だというふうを考えております。

以上です。

○分科会長（福田裕司君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 有効な手段であること、よくわかりました。課題等はあるでしょうか。

○分科会長（福田裕司君） 野中収税課長。

○収税課長（野中 守君） 手数料とかというのがもちろんかかってきますので、その分が支出が増えるというのはありますけれども、それ以上に歳入が入ってくるということで、いいことだということを感じております。

以上です。

○分科会長（福田裕司君） ほかに質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） ないようですので、次に移ります。

続きまして、9款消防費及び10款教育費を一括とした質疑に入ります。9款は286ページから297ページ、10款は325ページの伝建地区拠点施設整備事業費、伝統的建造物群保存事業費及び伝建地区防災事業費が所管となります。

永田委員。

○委員（永田武志君） 287ページ、幼年消防クラブ育成事業費、幼年、何歳までを求めているのか、またその事業内容、現況をお知らせいただきたいと思えます。

○分科会長（福田裕司君） 赤城予防課長。

○予防課長（赤城一仁君） ご質問にお答え申し上げます。

現在はまだ設置されていない状況でございますが、栃木市幼稚園連合会の認定こども園15園の中で、本年4月以降設置していただく予定でございます。

以上でございます。

○分科会長（福田裕司君） 永田委員。

○委員（永田武志君） 現在まだ設置になっていないということですが、近隣でこのようなケースございましたらお願いいたします。

○分科会長（福田裕司君） 赤城予防課長。

○予防課長（赤城一仁君） お答え申し上げます。

平成29年4月1日現在で、佐野市、幼稚園22クラブ、鹿沼市、幼稚園23クラブ、小山市、幼稚園38クラブがございます。

以上でございます。

○分科会長（福田裕司君） 永田委員。

○委員（永田武志君） 佐野市22、小山市38、栃木市の目標は何クラブぐらいが目標に充てているのでしょうか、お伺いいたします。

○分科会長（福田裕司君） 赤城予防課長。

○予防課長（赤城一仁君） お答え申し上げます。

現在栃木市幼稚園連合会が15園、公立保育園が11園、民間保育園が8件ございまして、計34園のうち、できれば全部の幼稚園に設置していただきたいと考えております。

以上でございます。

○分科会長（福田裕司君） 永田委員。

○委員（永田武志君） 栃木市全体で34、全て目標として設置していきたい、この試み、スタートは遅いですが、結果がよければよろしいかと思えます。ぜひご尽力いただきたいと思えます。要望です。

○分科会長（福田裕司君） ほかに質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） ないようですので、次に移ります。

次に、12款公債費及び13款予備費を一括した質疑に入ります。予算書は344ページから347ページであります。

よろしいですか。ないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） ないようですので、以上で歳出各款ごとの質疑を終わります。

続いて、歳入の所管関係部分を一括した質疑に入ります。予算書は34ページから123ページであります。

入野委員。

○委員（入野登志子君） 歳入のほうの115ページで、上から4段目に防災ラジオ販売収入等ってあるのですが、これは平成31年度何台の予定になっているのかお伺いいたします。

○分科会長（福田裕司君） 糸井危機管理課長。

○危機管理課長（糸井孝王君） 予算計上をしてあります台数としましては、一般の有償配布と、あとは75歳以上の世帯の配布ということで料金が変わってくるのですが、一般配布を30台、高齢者のみの世帯を対象としたものを70台と、合わせて100台ということで予算計上をさせていただいております。

○分科会長（福田裕司君） 入野委員。

○委員（入野登志子君） トータル100台ということなのですが、何年かこれ続いているのですけれども、買いたいという方はまだいらっしゃるかと思うのですけれども、この台数でこれから

災害も、非常にこの防災ラジオって生かされていますので、各家庭にあるととても安心していただけますけれども、申込者がだんだん減ってきているということなのかどうかお伺いいたします。

○分科会長（福田裕司君） 糸井危機管理課長。

○危機管理課長（糸井孝王君） 平成28年度から販売が始まりまして、平成28年度のときは1,377台が有償配布ということになったのですけれども、平成29年度は322台です。平成30年度が2月1日現在でございますけれども、57台ということで、販売台数は大分減ってきているというのが現状でございます。

○分科会長（福田裕司君） 入野委員。

○委員（入野登志子君） 台数、当初に比べると減ってきているのですけれども、こちらからのお声かけがもうこれしかないよと言っているのか、必要な方は言ってくださいと言っているのか、PRの仕方はどのようにされているのでしょうか。

○分科会長（福田裕司君） 糸井危機管理課長。

○危機管理課長（糸井孝王君） 今販売の方法、通年販売ということでいつでもご希望の方には販売するという方法にはなっているのですけれども、通年販売に切りかえましてからは定期的に広報とちぎのほうで販売をしていますよというお知らせをさせていただいています。あとホームページ上ではいつでも購入できますよということで、常時掲載をしているところでございます。

○分科会長（福田裕司君） ほかに質疑はございませんか。

関口委員。

○委員（関口孫一郎君） 101ページの利子及び配当金についてお伺いをいたします。

補正のほうでも説明があったかと思うのですが、大澤基金利子198万2,000円、利率が下がってしまったのでということで説明あったのですが、この基金の原資、今現在どの程度ございますでしょうか。

○分科会長（福田裕司君） 萩原管財課長。

○管財課長（萩原雄一君） 今回の予算の算出に当たっての運用額は約9億9,000万円でございます。平成30年度末の見込みといたしまして9億8,900万円を見込んでおります。

以上です。

○分科会長（福田裕司君） 関口委員。

○委員（関口孫一郎君） 約10億円ということですね。

それでは、次に109ページお願いします。108ページ、109ページの繰入金、大澤基金繰入金が前年度が1億2,500万円余り、本年度が予算とすると5,000万円ということなのですが、これを減額した過程というか、説明をお願いいたします。

○分科会長（福田裕司君） 萩原管財課長。

○管財課長（萩原雄一君） 大澤基金は、今回の5,000万円は北部健康福祉センターの建設の資金と

して充当させていただいております。その前の年まではしばらく大澤基金は平成25年からは使っておりません。大澤基金の繰入金につきましては今回が5,000万円、去年も5,000万円、北部健康福祉センターに使わせていただいておりますが、その前につきましては平成25年までは使っておりません。

〔「減額になった経緯というのを伺っているのです」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） 萩原管財課長。

○管財課長（萩原雄一君） 北部健康福祉センターのほうに充当しましたが、その金額がもしかしたら5,000万円使わなくて済んでしまったのだと思うのですが、その辺についてちょっと確認させていただければと思います。

○分科会長（福田裕司君） では、後で。よろしいですか。

○委員（関口孫一郎君） わかりました。後でということ。

○分科会長（福田裕司君） ほかに質疑ありませんか。

天谷委員。

○委員（天谷浩明君） 115ページ、中段から下の生活保護費返還金等について伺います。2,400万円、数字上がっております。まず、内容について確認させていただきます。

〔「所管外だ」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） 萩原管財課長のところはお答え、先ほどのできますか。

○管財課長（萩原雄一君） 後で。

○分科会長（福田裕司君） 次、後で結構ですか。

〔「済みません」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） では、この歳入についてはないようですので、次に移りたいと思います。

次に、議案書の1ページから12ページであります。第3条、債務負担行為、第4条、地方債、第5条、一時借入金及び第6条、歳出予算の流用を一括した質疑に入ります。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福田裕司君） ないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

◎閉会の宣告

○分科会長（福田裕司君） 以上で当分科会の審査は終了いたしました。

なお、分科会長報告の作成については、正副分科会長にご一任願います。

また、繰り返しになりますが、3月22日金曜日、午前10時から予算特別委員会全体会において分科会長報告、質疑、討論、表決を行いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして予算特別委員会総務分科会を閉会いたします。
大変ご苦労さまでした。ありがとうございました。

(午前11時41分)